

|   |                           |             |             |
|---|---------------------------|-------------|-------------|
| 授業科目名：経済学特<br>論   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：宇都 伸之 |
|   |                           |             | 担当形態：単独     |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項               |             |             |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>不確実性下における意思決定理論における代表的な理論である期待効用理論を数理的に説明できる。</p>  |                           |             |             |
| <p>授業の概要</p> <p>個人や経営者、組織などが直面する選択問題において、合理的な判断や選択を記述的あるいは規範的に研究する学問として意思決定理論があります。経営学的な側面からはBarnardやSimonによる研究、Cohen、March、Olsenによるごみ箱モデルが代表的な意思決定理論として知られています。経済学的な側面からはvon NeumannとMorgenstern、さらにはSavageらが期待効用理論として公理的に体系化した数理モデルとしての意思決定理論が知られています。本科目は後者の意思決定理論について代表的なトピックを講義します。</p>  |                           |             |             |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：判断と選択におけるバイアス①：フレーミング効果、サンクコスト、決定木</p> <p>第3回：判断と選択におけるバイアス②：ヒューリスティックス、動学的非整合性</p> <p>第4回：統計データと意思決定①：条件付確率、平均への回帰</p> <p>第5回：統計データと意思決定②：相関関係と因果関係、ベイジアン統計</p> <p>第6回：リスク下の意思決定①：独立性の公理、vNM期待効用理論</p> <p>第7回：リスク下の意思決定②：効用の測定、危険回避度</p> <p>第8回：リスク下の意思決定③：プロスペクト理論</p> <p>第9回：不確実性下の意思決定①：主観的確率、因果関係</p> <p>第10回：不確実性下の意思決定②：確実性原理、代替モデル</p> <p>第11回：不確実性下の意思決定③：客観的確率</p> <p>第12回：集団的意思決定①：効用の和、パレート基準とその限界</p> <p>第13回：集団的意思決定②：不可能性定理</p> <p>第14回：ゲームと均衡①：囚人のジレンマ、ナッシュ均衡</p> <p>第15回：ゲームと均衡②：均衡選択、コミットメント、共有知識</p> <p>定期試験</p> |                           |             |             |
| テキスト  |                           |             |             |

|          |                  |               |
|----------|------------------|---------------|
| 意思決定理論入門 | イツァーク・ギルボア NTT出版 | 9784757122826 |
|----------|------------------|---------------|

|           |
|-----------|
| 参考書・参考資料等 |
|-----------|

|          |
|----------|
| 適宜紹介します。 |
|----------|

|          |
|----------|
| 学生に対する評価 |
|----------|

|                 |
|-----------------|
| レポート50%、定期試験50% |
|-----------------|

|  |                           |             |            |
|--|---------------------------|-------------|------------|
| 授業科目名：マーケティング特論  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：清水聡子 |
|  |                           |             | 担当形態：単独    |
| 科 目  | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |            |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項               |             |            |
| 授業のテーマ及び到達目標 マーケティングの視点から地域活性化を考察します。地域とともに新しい未来を創造するためのアイデア形成を到達目標とします。   |                           |             |            |
| 授業の概要 本講義ではマーケティングの視点から地域活性化を考察し、地域ブランドの構築と支持される地域づくりについて展開します。地域のアイデンティティ（存在意義）や地域ブランド自体を多角的に議論し、アイデアを形成し、プレゼンテーションを実施します。  |                           |             |            |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：マーケティングと地域マーケティング</p> <p>第3回：地域と都市 地域のとらえ方</p> <p>第4回：「まち」と商店街</p> <p>第5回：ブランド</p> <p>第6回：地域産業</p> <p>第7回：地域ネットワーク</p> <p>第8回：地域ブランドの概念と構成</p> <p>第9回：インターナル・ブランディング</p> <p>第10回：地域ブランドの体系</p> <p>第11回：地域ブランド・プランニング</p> <p>第12回：地域ブランド・マネジメント</p> <p>第13回：地域の国際戦略</p> <p>第14回：地域マーケティングの新たな課題</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p> |                           |             |            |
| テキスト 佐々木茂・石川和男・石原慎士(2022)『新地域マーケティングの核心』同友館  |                           |             |            |
| 参考書・参考資料等  |                           |             |            |
| Michael R. Solomon (2023) Consumer Behavior, PEASON Education, Prentice Hall.  |                           |             |            |
| 学生に対する評価   |                           |             |            |
| 課題50%、レポート50%  |                           |             |            |

|   |                           |             |             |
|---|---------------------------|-------------|-------------|
| 授業科目名：生産管理<br>特論  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：田中 正敏 |
|   |                           |             | 担当形態：単独     |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項               |             |             |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>製品を産み出すには、部品や材料、人材、設備などを、いつ、どれだけ、どの時点で対処するかという生産情報の収集が重要視されています。その生産情報を効率的に最適に獲得することが目標達成です。</p>   |                           |             |             |
| <p>授業の概要</p> <p>生産活動を効率化や最適化の観点から解説します。製品を産み出すには、部品や材料、人材、設備などを、いつ、どれだけ、どの時点で対処するかという生産情報が必要であります。このとき、生産のタイミングやスピードが重要視されるなかで、生産情報の活用も増大しています。そこでは、生産情報の評価の1つに効率化や最適化についても考慮しなければなりません。本授業は、生産、情報、生産活動とは何か、あるいは生産管理の目的と役割について解説し、生産管理の技術的な技法について述べ、生産管理の発展と課題について解説します。</p>  |                           |             |             |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーリング（担当：単独）</p> <p>第2回：生産、情報、生産活動とは何か</p> <p>第3回：生産管理の目的と役割</p> <p>第4回：ジョンソン技法（時間的側面）</p> <p>第5回：その他のスケジューリング技法（時間的側面）</p> <p>第6回：分岐限定法（組み合わせ問題）</p> <p>第7回：動的計画法（組み合わせ問題）</p> <p>第8回：経済的発注方式（EOQ）</p> <p>第9回：定量発注方式（購入価格を考慮した方式）</p> <p>第10回：設備更新問題</p> <p>第11回：ラインバランス問題</p> <p>第12回：生産管理システムの歴史の変遷</p> <p>第13回：生産管理システムの管理技法</p> <p>第14回：ジャストインシステム</p> <p>第15回：生産管理の発展と課題</p> <p>定期試験</p> |                           |             |             |

テキスト

参考書・参考資料等

サプライチェーンマネジメント入門 著者：曹，中島，竹田，田中 出版：朝倉出版

データから読み解く経営学 著者：田中正敏 出版：創成社

学生に対する評価

レポート70%、小テスト20%、課題10%

|   |                           |             |             |
|---|---------------------------|-------------|-------------|
| 授業科目名：経営組織<br>特論  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：古田 成志 |
|   |                           |             | 担当形態：単独     |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項               |             |             |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マクロ組織論にもとづいた組織デザインの原理や枠組みを体系的に理解できる。</li> <li>・マクロ組織論の理論を踏まえたうえで、企業組織の事例に適用して幅広く考察することができる。</li> <li>・自身の研究にマクロ組織論の理論や枠組みを当てはめて検討することができる。</li> </ul>   |                           |             |             |
| <p>授業の概要</p> <p>本特論では、組織デザインを分析対象とするマクロ組織論（組織理論）に焦点を当て、マクロ組織論の諸理論の理解、および理論と結びつけて事例を解釈することを目的とします。具体的には、テキストに基づいて4つのサブテーマを設け、輪読形式で理論や枠組みの理解を深めます。そして、サブテーマごとに事例分析の回を設け、理解した理論を企業事例と結びつけて考察します。事例分析において多面的に検討することで、履修者の研究領域における理論の適用可能性を見出していきます。</p>   |                           |             |             |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：組織と組織理論</p> <p>第3回：組織の目標と組織の設計（1）戦略、組織設計、有効性</p> <p>第4回：組織の目標と組織の設計（2）組織構造の基本</p> <p>第5回：オープン・システムとしての組織の設計状態（1）外部環境と組織の関係</p> <p>第6回：オープン・システムとしての組織の設計状態（2）製造業とサービス業の組織</p> <p>第7回：オープン・システムとしての組織の設計状態（3）事例分析</p> <p>第8回：組織内部の設計状態（1）組織の規模、ライフサイクル、コントロール</p> <p>第9回：組織内部の設計状態（2）組織の文化と倫理的価値観</p> <p>第10回：組織内部の設計状態（3）イノベーションと変革</p> <p>第11回：組織内部の設計状態（4）事例分析</p> <p>第12回：動的过程のマネジメント（1）意思決定のプロセス</p> <p>第13回：動的过程のマネジメント（2）コンフリクト、力、そして政治</p> <p>第14回：動的过程のマネジメント（3）事例分析</p> <p>第15回：総括</p> |                           |             |             |

定期試験は実施しません。

テキスト

組織の経営学—戦略と意思決定を支える— (著者：R. L. ダフト 出版：ダイヤモンド社)

参考書・参考資料等

経営組織論シリーズ1 マクロ組織論 (監修者：高橋正泰、出版：学文社)

学生に対する評価

レポート試験 (80%)、受講態度 (20%)

|  |                           |             |            |
|--|---------------------------|-------------|------------|
| 授業科目名：データ分析特論  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：室谷 心 |
|  |                           |             | 担当形態：単独    |
| 科 目  | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |            |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項               |             |            |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>問題解決に必要なデータを、インターネットなどから取得したりシミュレーションによって作成することができる。そしてそのデータの持つ意味を明らかにするための適切な技法を選択して実行できるようになる。</p>  |                           |             |            |
| <p>授業の概要</p> <p>様々なデータを問題解決に活用するためには、データから“意味”を引き出す必要があります。大量のデータに埋もれることなくデータの持つ意味を適切に取り出すための、統計処理や可視化、テキストマイニングといった様々な技法の習得を目指します。また、実際のデータが入手できない場合には、シミュレーションを行ってモデルデータを作製する技術も必要です。本講義では、データの収集、作成から統計的な分析や意味付けまでの一連の技法を理解し、実際に活用できるようになりましょう。</p>   |                           |             |            |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：データサイエンス入門</p> <p>第2回：数学の基礎知識</p> <p>第3回：データマニピュレーション</p> <p>第4回：スコアとランキング</p> <p>第5回：統計分析</p> <p>第6回：データの可視化</p> <p>第7回：モデル化</p> <p>第8回：中間発表会</p> <p>第9回：線形回帰</p> <p>第10回：ロジスティック回帰</p> <p>第11回：ネットワーク分析</p> <p>第12回：機械学習</p> <p>第13回：テキストマイニング</p> <p>第14回：シミュレーション</p> <p>第15回：発表と講評</p> <p>定期試験</p> |                           |             |            |

テキスト

データサイエンス設計マニュアル 著者：Steven S. Skiena 出版：オライリージャパン

参考書・参考資料等

戦略的データサイエンス入門 著者：Foster Provost, Tom Fawcett 出版：オライリージャパン

学生に対する評価

定期試験50%、課題50%

|   |                           |             |            |
|---|---------------------------|-------------|------------|
| 授業科目名：企業取引<br>法特論   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：増尾 均 |
|   |                           |             | 担当形態：単独    |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |            |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項               |             |            |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>商法の専門的な知識、体系的な理解の修得を講義内容としています。そのため、「商法総則・商行為」のみならず、会社法、民法などの関連諸法の立法趣旨、目的、機能について把握すること、現行法の問題点や今後の方向性などを理解することを目標とします。</p>   |                           |             |            |
| <p>授業の概要</p> <p>企業における取引は、活動の中心であり重要な意味を持っており、これを律している法律を学ぶことは経営・経済を学ぶ上で意義深いものがあります。本講義では、「商法総則・商行為」が中心となりますが、「会社法」、「民法」、「手形法・小切手法」などの関連諸法も授業内容に含めています。これらの法に関する専門的な理論や概念について理解を深めるとともに、法的思考力を育成してもらいます。企業は、地域を構成する主要要素の一つであるとともに、現代社会の経済活動を担う中心的な存在です。これを規律する法律を学ぶことは、地域にある課題を把握することになるだけでなく、社会の仕組みを理解するに資することになります。</p> |                           |             |            |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：商法の沿革</p> <p>第2回：商人適格</p> <p>第3回：商号</p> <p>第4回：商業使用人</p> <p>第5回：さまざまな営業と特殊な営業</p> <p>第6回：民法と商法の交錯</p> <p>第7回：典型契約と非典型契約</p> <p>第8回：普通取引約款</p> <p>第9回：商事売買</p> <p>第10回：消費者保護法</p> <p>第11回：判例分析①取引に関する判例</p> <p>第12回：カードなどのさまざまな決済</p> <p>第13回：資金決済のいろいろ</p> <p>第14回：判例分析②決済に関する判例</p> <p>第15回：まとめ</p>   |                           |             |            |

定期試験は実施しない。

テキスト

著書名：有斐閣法律学叢書商法総則・商行為法(著者：近藤光男 出版：有斐閣)

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

課題発表50%、レポート50%

|  |                           |             |             |
|--|---------------------------|-------------|-------------|
| 授業科目名：ゲーム理論特論  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：宇都 伸之 |
|  |                           |             | 担当形態：単独     |
| 科 目  | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項               |             |             |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>ゲーム理論を使った専門論文を読みこなす数学的な素養が身についている。   |                           |             |             |
| 授業の概要<br>すでに学部レベルのゲーム理論を学んだ学生に対して、標準的な大学院レベルのゲーム理論を講義します。学部レベルでは証明略や直感的な説明でとどまっていた内容を、集合・位相論、確率論などの知識を使い一つ一つ議論していきます。  |                           |             |             |
| 授業計画<br>第1回：集合と写像 ゲーム理論とは<br>第2回：合理的意思決定のモデル<br>第3回：戦略形ゲーム①：戦略形ゲームの定義<br>第4回：戦略形ゲーム②：最適反応とナッシュ均衡<br>第5回：戦略形ゲーム③：戦略の支配 均衡選択<br>第6回：戦略形ゲーム④：混合拡大<br>第7回：戦略形ゲーム⑤：戦略形ゲームの応用(公共財供給ゲーム、クールノー複占市場)<br>第8回：戦略形ゲーム⑥：戦略形ゲームの応用(電力消費ゲーム、査察ゲーム)<br>第9回：展開形ゲーム①：ゲームの木と情報集合<br>第10回：展開形ゲーム②：ナッシュ均衡とナッシュ均衡の精緻化<br>第11回：展開形ゲーム③：後ろ向き帰納法と部分ゲーム完全均衡<br>第12回：展開形ゲーム④：偶然手番を取り入れた展開形ゲーム<br>第13回：展開形ゲーム⑤：ゼルテンの完全均衡<br>第14回：展開形ゲーム⑥：最適化原理と逐次均衡<br>第15回：展開形ゲーム⑦：展開形ゲームの応用(最後通牒ゲーム、信頼ゲーム)<br>定期試験 |                           |             |             |
| テキスト<br>ゲーム理論〔第3版〕 岡田章 有斐閣 978-4641165779  |                           |             |             |
| 参考書・参考資料等<br>適宜紹介します。  |                           |             |             |
| 学生に対する評価   |                           |             |             |

定期試験100%

|  |                           |             |             |
|--|---------------------------|-------------|-------------|
| 授業科目名：農業経営<br>特論   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：岡崎 滋樹 |
|  |                           |             | 担当形態：<br>単独 |
| 科 目  | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項               |             |             |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>まずは、国あるいは地方が抱える農業問題を考察する上で、その背後にある経済的要素と非経済的要素を的確に把握し、問題の多様性（複雑性）・地域性等を理解することが大切です。そして、関連の理論やモデルを批判的に検証する視点も養い、農業問題の本質的部分に立脚して学術的に思考・議論できるようになることが到達目標です。</p>   |                           |             |             |
| <p>授業の概要</p> <p>本科目では、現代の世界各国・地域や国内各地で起きている農業と経営に関する事例を検証し、学術的に国あるいは地方が抱える農業問題の解決策を考究します。具体的にはまず、農業問題の多様性（複雑性）・地域性等を理解し、農業をとりまく経済的要素と非経済的要素を的確に把握することで、本質的課題にアプローチするための視点を学びます。そして、本質的課題を認識した上で、現在各国・地域や各地方で盛んに提起されている理論やモデルを批判的に吟味・検証し、問題解決のための新たな方策を議論・検討します。</p>  |                           |             |             |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：本講義についてガイダンス</p> <p>第2回：農業と食の問題について一人間社会の普遍性という視点もふまえながら</p> <p>第3回：農業問題と経済的要素について（1）生産者サイドの利害関係と組織の視点について</p> <p>第4回：農業問題と経済的要素について（2）流通システムに内在する各組織の問題について</p> <p>第5回：農業問題と非経済的要素について（1）政治・外交とグローバル農業について</p> <p>第6回：農業問題と非経済的要素（2）資源獲得競争と諜報活動について</p> <p>第7回：グローバル化と農業について（1）関連の県内中小企業の生産現場について</p> <p>第8回：グローバル化と農業について（2）長野県の海外展開戦略と生産者について</p> <p>第9回：グローバル化と農業について（3）県内企業の台湾進出における問題について</p> <p>第10回：グローバル化と農業について（4）県内に進出する海外企業の実態について</p> <p>第11回：農業発展をどう見るかについて（1）市場縮小という主要課題の見方について</p> <p>第12回：農業発展をどう見るかについて（2）付帯事業の発掘と展開について</p> <p>第13回：地方農業の今後について（1）グローバル競争と地元企業の今後について</p> <p>第14回：地方農業の今後について（2）人口減少に伴う新たな土地利用と外資について</p> <p>第15回：本講義についての総括</p> |                           |             |             |

定期試験は実施しない。

テキスト

地域活性化のための戦略的農業経営 著者：井形元彦 出版：千倉書房

参考書・参考資料等

新しい農業経済論—マクロ・ミクロ経済学とその応用 著者：山口三十四・衣笠智子・中川雅嗣 出版：有斐閣

農と食とフードシステム 著者：稲本志良・大西輯・斎藤修・安村碩之 出版：農林統計協会

日本農村社会の行方 著者：日本村落研究学会 出版：農山漁村文化協会

学生に対する評価

レポート80%、課題20%

|  |                      |                           |             |
|--|----------------------|---------------------------|-------------|
| 授業科目名：経営戦略<br>特論   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>2単位               | 担当教員名：田中 正敏 |
|  |                      |                           | 担当形態：単独     |
| 科 目  |                      | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項          |                           |             |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国や地方、企業や住民の主体者が、互いにWin-Win関係に導く手法（メカニズム・デザイン）を理解することが到達目標です。例えば、ある企業と市町村がふさわしい制度設計を構築することで、その企業や地域の住民が共に効用が高まる関係となることの理解を目標とします。</p>  |                      |                           |             |
| <p>授業の概要</p> <p>企業活動と経営戦略の全体の概要、経営戦略論の変遷、ゲーム理論の概要、意思決定を行うための手法などを講義します。特に、学際的な戦略的意思決定の例としてチャンドラーの組織構造、ポーターの競争戦略論、ミンツバーグの組織戦略について講義します。続いて、ゲーム理論を用いた戦略的意思決定の例として、シュタッケルベルグモデル、クールノーモデル、ベルトランモデルについて述べます。最後に、メカニズム・デザイン・情報の経済学の概念およびその応用（買戻契約手法、収入分与手法、モラルハザード、逆選択）について講義します。</p>  |                      |                           |             |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーリング（担当：単独）</p> <p>第2回：経営戦略論の定義および活用</p> <p>第3回：ゲーム理論および情報の経済学の活用</p> <p>第4回：1960年代の学際的な経営戦略論</p> <p>第5回：1970年代の学際的な経営戦略論</p> <p>第6回：1980年代以降の学際的な経営戦略論</p> <p>第7回：ゲーム理論を用いた競争を協力</p> <p>第8回：ゲーム理論を用いた同時手番の寡占</p> <p>第9回：ゲーム理論を用いた時間を通して行われるゲーム</p> <p>第10回：メカニズム・デザインの定義</p> <p>第11回：サプライチェーン契約手法</p> <p>第12回：卸売契約手法・買戻契約手法</p> <p>第13回：情報の経済学における情報の非対称性</p> <p>第14回：情報の経済学におけるエイジェンシー理論</p> <p>第15回：情報の経済学における逆選択とスクリーニング</p> <p>定期試験</p> |                      |                           |             |

テキスト

データから読み解く経営学 著者：田中正敏 出版：創成社

参考書・参考資料等

サプライチェーンマネジメント入門 著者：曹，中島，竹田，田中 出版：朝倉出版

学生に対する評価

レポート70%、小テスト20%、課題10%

|  |                           |             |            |
|--|---------------------------|-------------|------------|
| 授業科目名：経営統計<br>特論   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：室谷 心 |
|  |                           |             | 担当形態：単独    |
| 科 目  | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |            |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項               |             |            |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>データに基づいて経営学や経済学の問題の解決を図ることができるようになる。それに必要な統計的技法を理解し実際に使えるようになる。</p>   |                           |             |            |
| <p>授業の概要</p> <p>経営学や経済学に例を取り、具体的なデータを用いて基本的な分析技法を”使いながら身につけ”ます。様々なデータを問題解決に活用するためには、データから“意味”を引き出す必要があります。大量のデータに埋もれることなくデータの持つ意味を適切に取り出すための、統計処理や可視化、テキストマイニングといった様々な技法の習得を目指します。また、実際のデータが入手できない場合には、シミュレーションを行ってモデルデータを作製する技術も必要です。本講義では、経営や経済に関連したモデル化、データの収集、作成から統計的な分析や意味付けまでの一連の技法を理解し、実際に活用できるようになりましょう。</p>   |                           |             |            |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：データの入手</p> <p>第2回：解析のためのPythonの処理系の構築</p> <p>第3回：機械学習概論</p> <p>第4回：クラス分類と回帰</p> <p>第5回：線形分類</p> <p>第6回：サポートベクトル</p> <p>第7回：ニューラルネットワーク</p> <p>第8回：SQL処理系の構築</p> <p>第9回：データベースへのビックデータの取り込み（NII IDRのメルカリデータを例に）</p> <p>第10回：CASEを使ったクロス集計</p> <p>第11回：WINDOWの利用</p> <p>第12回：時系列データの扱い</p> <p>第13回：顧客の購買データと相関分析</p> <p>第14回：書き込みテキストのテキストマイニング</p> <p>第15回：Ising モデルによる量子計算の活用</p> <p>定期試験</p> |                           |             |            |

テキスト

Pythonではじめる機械学習 Andreas C. Muller、Sarah Guido著 オライリージャパン

参考書・参考資料等

ビッグデータ分析・活用のためのSQLレシピ 加瀬長門、田宮直人著 マイナビ出版

学生に対する評価

定期試験50%、課題50%

|   |                           |             |             |
|---|---------------------------|-------------|-------------|
| 授業科目名：組織行動<br>特論  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：古田 成志 |
|   |                           |             | 担当形態：単独     |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項               |             |             |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織行動における理論や枠組みを体系的に理解できる。</li> <li>・組織行動の理論を踏まえたうえで、企業組織の事例と結びつけて考察することができる。</li> <li>・自身の研究に組織行動論の理論や枠組みを当てはめて検討することができる。</li> </ul>   |                           |             |             |
| <p>授業の概要</p> <p>本特論では、組織内に所属する個人や集団を分析対象とする組織行動論（マイクロ組織論）に焦点を当て、組織行動論の諸理論の理解、および理論と結びつけて事例を解釈することを目的とします。具体的には、テキストに基づいて組織の中の個人と集団と2つのサブテーマを設け、輪読形式で理論や枠組みの理解を深めます。そして、組織行動学の理論にもとづくリサーチデザインの構築を検討する回を設け、理解した理論をもとにどのように研究の発展につなげるかを考察します。考察を通じて、履修者の研究領域における理論の適用可能性を見出していきます。</p>   |                           |             |             |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：組織行動学とは何か</p> <p>第3回：組織の中の個人（1）個人の行動の基礎</p> <p>第4回：組織の中の個人（2）パーソナリティと感情</p> <p>第5回：組織の中の個人（3）動機づけの基本的なコンセプト</p> <p>第6回：組織の中の個人（4）動機づけ：コンセプトから応用へ</p> <p>第7回：組織の中の個人（5）個人の意思決定</p> <p>第8回：組織の中の集団（1）集団行動の基礎</p> <p>第9回：組織の中の集団（2）”チーム”を理解する</p> <p>第10回：組織の中の集団（3）コミュニケーション</p> <p>第11回：組織の中の集団（4）リーダーシップと信頼の構築</p> <p>第12回：組織の中の集団（5）力（パワー）と政治</p> <p>第13回：組織の中の集団（6）コンフリクトと交渉</p> <p>第14回：組織行動学におけるリサーチデザイン</p> <p>第15回：総括</p> |                           |             |             |

定期試験は実施しません。

テキスト

組織行動のマネジメント—入門から実践へ—（著者：S. L. ロビンス 出版：ダイヤモンド社）

参考書・参考資料等

経営組織論シリーズ2 ミクロ組織論（監修者：高橋正泰 出版：学文社）

学生に対する評価

レポート試験（80%）、授業内での発表（20%）

|  |                           |             |            |
|--|---------------------------|-------------|------------|
| 授業科目名：産業・組織心理学特論   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：矢崎 久 |
|  |                           |             | 担当形態：単独    |
| 科 目  | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |            |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項               |             |            |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>産業心理学：産業組織における最適な人材配置、仕事の効率や生産性を高める必要性、人間の仕事とコンピューターなどの電子機器類の仕事の効果と弊害、また、メンタルヘルスとはなにか、産業組織に属する人間のメンタルヘルスの維持や確保・増進の意義について理解している。</p> <p>組織心理学：基盤としての人間の行動特性、組織における人間の行動特性、組織集団のダイナミクスの理解と評価、また、組織集団のダイナミクスの評価結果から、組織とその集団成員や個々の幸福・仕事の効率化・生産性の向上について、その必要性と方法を理解している。</p>   |                           |             |            |
| <p>授業の概要</p> <p>産業心理学および組織心理学の理論と実践について学修します。</p>  |                           |             |            |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、産業心理学とはなにか</p> <p>第2回：組織心理学とはなにか</p> <p>第3回：組織を対象とした研究、動機</p> <p>第4回：人間の欲求と組織</p> <p>第5回：グループダイナミクス</p> <p>第6回：組織における役割と行動</p> <p>第7回：組織調査法</p> <p>第8回：パーソナリティとストレス</p> <p>第9回：パーソナリティ理論</p> <p>第10回：発達と変化</p> <p>第11回：心理アセスメント（質問紙法）</p> <p>第12回：心理アセスメント（投影法）</p> <p>第13回：精神疾患の理解</p> <p>第14回：休業とリワークプログラム</p> <p>第15回：産業・組織心理学のまとめ</p> <p>定期試験</p> |                           |             |            |
| <p>テキスト：テキストとして講義中に適宜プリントを配布します。</p>   |                           |             |            |

参考書・参考資料等：丹野義彦他編『臨床心理学』有斐閣.2015

学生に対する評価：受講状況と討論の内容60%、レポート課題40%

|  |                      |                           |             |
|--|----------------------|---------------------------|-------------|
| 授業科目名：中小企業<br>特論   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>2単位               | 担当教員名：兼村 智也 |
|  |                      |                           | 担当形態：単独     |
| 科 目  |                      | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項          |                           |             |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>同じ企業経営でも大企業とは異なる中小企業の「経営」を分析する視点、優れた業績を残す中小企業にある要因を分析する視点を養うことができる。</p>   |                      |                           |             |
| <p>授業の概要</p> <p>日本の企業のほとんどを占める中小企業について、その歴史や理論、「中小」であるがゆえでの固有の経営上の特徴、発展性や限界性などについて学習します。また新たな成長機会として可能性が広がるグローバル化への取り組み、そのなかでの中小企業の経営戦略について学習します。</p>  |                      |                           |             |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：中小企業とは何か</p> <p>第2回：中小企業の役割と存立分野</p> <p>第3回：中小企業と地域経済</p> <p>第4回：中小企業問題と政策</p> <p>第5回：中小企業経営の特徴</p> <p>第6回：ファミリービジネス（FB）とは何か</p> <p>第7回：中小企業の経営戦略</p> <p>第8回：中小企業のマーケティング戦略</p> <p>第9回：中小企業の事業創造</p> <p>第10回：中小企業と人材</p> <p>第11回：中小企業の高付加価値経営</p> <p>第12回：中小企業とソーシャルビジネス</p> <p>第13回：中小企業の国際化</p> <p>第14回：グローバル・ニッチトップとボーン・グローバル企業</p> <p>第15回：地域中小企業の事例分析</p> <p>定期試験は実施しない。</p> |                      |                           |             |
| <p>テキスト</p> <p>授業中に適宜資料を配布する。</p>  |                      |                           |             |
| 参考書・参考資料等  |                      |                           |             |

よくわかる中小企業（関智宏編著、ミネルヴァ書房）等

学生に対する評価

レポート作成・報告（70%）、受講態度（30%）

|   |                           |             |            |
|---|---------------------------|-------------|------------|
| 授業科目名：企業法特論   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：増尾 均 |
|   |                           |             | 担当形態：単独    |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |            |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項               |             |            |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>企業法の基礎的な知識、体系的な理解の修得と問題意識を持つことを目標とします。具体的には、会社法、商法、関連諸法の立法趣旨、目的、機能について基本的な事柄を把握していること、並びに現行法の問題点、今後の改善方向などを理解していることを求めます。また、地域の中にあって企業はどう在るべきか意見を持つことが必要です。</p>  |                           |             |            |
| <p>授業の概要</p> <p>本講義では、商法や会社法に関する基礎的な理論や概念について理解を深めるとともに、法的思考力を育成することを目的に行います。企業は、地域を構成する主要要素の一つであるとともに、現代社会の経済活動を担う中心的な存在です。これを規律する法律を学ぶことは、地域にある課題を把握することになるだけでなく、社会の仕組みを理解するに資することになります。本講義は、専門基礎科目であるため、他の地域経営科目にもつながるように指導することとしています。</p>   |                           |             |            |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：商法総則</p> <p>第3回：商業使用人</p> <p>第4回：商行為</p> <p>第5回：いろいろな決済</p> <p>第6回：中間の発表</p> <p>第7回：会社法総論</p> <p>第8回：株式会社の設立</p> <p>第9回：株主総会</p> <p>第10回：株式会社の機関</p> <p>第11回：会社の計算</p> <p>第12回：組織の再編・変更</p> <p>第13回：会社の解散と清算</p> <p>第14回：関連諸法</p> <p>第15回：まとめ</p> |                           |             |            |

|   |
|---|
| 定期試験  |
| テキスト<br>著書：会社法(著者：田中亘 出版：東京大学出版会)                 |
| 参考書・参考資料等<br>著書名：商法総則・商行為法(著者：蓮井良憲・森淳二郎 出版：法律文化社) |
| 学生に対する評価<br>定期試験50%、レポート50%                       |

|   |                           |             |             |
|---|---------------------------|-------------|-------------|
| 授業科目名：地域産業<br>特論  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：兼村 智也 |
|   |                           |             | 担当形態：単独     |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項               |             |             |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>地域産業の活性化・イノベーションに必要な条件や要素を理解する。   |                           |             |             |
| 授業の概要<br>具体的な地域産業のケースをみることを通じて、上記の促進を図る。  |                           |             |             |
| 授業計画<br>第1回：地域産業とは何か、関連する理論・分析視点の解説<br>第2回：地場産業のブランド化<br>第3回：地方発イノベーションとその優位性<br>第4回：長野県ワイン産業のイノベーション<br>第5回：信州の伝統的工芸品産業のイノベーション<br>第6回：諏訪・岡谷地域産業集積のイノベーション<br>第7回：都会から人を呼び込む<br>第8回：行政と民間の協働・共創によるイノベーション<br>第9回：山岳リゾート・オールシーズン化へのイノベーション<br>第10回：代表民主制と自治体議会のイノベーション<br>第11回：「学生起業」が生み出される地域の関係性<br>第12回：身の丈起業が醸す静かなイノベーション<br>第13回：サステイナブル・アントレプレナーシップと地域イノベーション<br>第14回：フィールド・チャレンジ<br>第15回：地域産業の国際化<br>定期試験は実施しない。 |                           |             |             |
| テキスト<br>授業中に適宜資料を配布する。  |                           |             |             |
| 参考書・参考資料等<br>脱炭素社会の地域イノベーションとエコシステム（高橋美樹・北嶋守編著 同友館）等  |                           |             |             |
| 学生に対する評価<br>レポート作成・報告（70%）、受講態度（30%）  |                           |             |             |

|  |                           |             |             |
|--|---------------------------|-------------|-------------|
| 授業科目名：地域経済<br>特論   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：古川 智史 |
|  |                           |             | 担当形態：単独     |
| 科 目  | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項               |             |             |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地域経済に対するアプローチ方法、概念を理解するとともに、それらを批判的に検討し課題等を指摘できる。</p> <p>地域経済に関する様々な事例を通じて、地域経済の実態や直面する課題を理解する。</p> <p>地域経済に対して、広域的な視点を念頭に置きながら、多面的にアプローチできる。</p>   |                           |             |             |
| <p>授業の概要</p> <p>本特論では、テキストの講読およびディスカッションを通じて、産業立地・集積に関する議論を踏まえながら、地域経済へのアプローチ方法、分析手法、概念について、担当者の専門である経済地理学の視点から検討します。その際、地域経済に関する様々なトピックを取り上げながら、その実態や課題についても理解を深めます。本特論の一環として、エクスカージョン（巡検）を実施します。</p>   |                           |             |             |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：経済地理学とはなにか（1）：経済立地の理論（テキスト第1章）</p> <p>第3回：経済地理学とはなにか（2）：地域経済の発展のメカニズム（テキスト第2章）</p> <p>第4回：経済地理学とはなにか（3）：サービス経済化と広がる地域間格差（テキスト第3章）</p> <p>第5回：経済地理学とはなにか（4）：人々のキャリアと経済空間（テキスト第4章）</p> <p>第6回：グローバル化と地域経済（1）：経済のグローバル化と産業立地・地域経済（テキスト第5章）</p> <p>第7回：グローバル化と地域経済（2）：サプライチェーンと南北問題（テキスト第6章）</p> <p>第8回：グローバル化と地域経済（3）：グローバル化時代の都市と都市ネットワーク（テキスト第9章）</p> <p>第9回：産業集積と地域（1）：地域のなかでのものづくり（テキスト第10章）</p> <p>第10回：産業集積と地域（2）：工業化で変わる新興国（テキスト第11章）</p> <p>第11回：産業集積と地域（3）：都市に集まる創造産業（テキスト第13章）</p> <p>第12回：地域の持続可能性（1）：中心商店街のゆくえ（テキスト第16章）</p> <p>第13回：地域の持続可能性（2）：農山村の活性化（テキスト第17章）</p> <p>第14回：地域の持続可能性（3）：観光・ツーリズムがもたらす地域の変化（テキスト第18章）</p> |                           |             |             |

)

第15回：総括

定期試験は実施しない。

テキスト

経済地理学への招待（編著者：伊藤達也・小田宏信・加藤幸治 出版：ミネルヴァ書房）

参考書・参考資料等

経済地理学—立地・地域・都市の理論—（著者：松原 宏 出版：東京大学出版会）

学生に対する評価

課題50%

受講態度50%

|   |                           |             |            |
|---|---------------------------|-------------|------------|
| 授業科目名：地域振興<br>特論  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：向井 健 |
|   |                           |             | 担当形態：単独    |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |            |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項               |             |            |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】<br/>生活・労働の諸課題と向き合う地域づくりと住民の学習</p> <p>【到達目標】<br/>（１）地域振興政策の歴史的展開とそれらの課題とは何であったのかを説明できるようになること、（２）現代社会において「地域を創る学び」が求められる理由と意義について説明できるようになること、（３）地域を拓く学びを支えるシステムのあり方を描くことができるようになることを目標とします。</p>   |                           |             |            |
| <p>授業の概要</p> <p>排除性の強まった現代社会では、複雑な地域課題がますます顕在化しており、それらの地域課題解決に資する地域づくりが求められています。近年では、地域振興に関わる政策として地域創生政策が推進されていますが、地域の生活者・労働者の主体性を育み、人々のWell-beingを形作るものかは検討をする必要があるでしょう。このような地域振興政策の展開の一方で、多様な担い手（行政・住民組織・NPO・民間企業など）が切実な地域課題の解決を求め「地域再生への学び」に取り組んでいることもわかります。本講義では、国内外の地域学習・生涯学習理論の研究蓄積に学びながら、地域の課題解決を求める人々の取り組む「地域を創る学び」の論理を探求していくこととします。</p>                  |                           |             |            |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：地域振興政策の歴史的展開と変遷①：戦後～1970年代を中心に<br/>第2回：地域振興政策の歴史的展開と変遷②：1970年代～現代を中心に<br/>第3回：地域振興政策の批判的検討：持続可能な社会と内発的発展<br/>第4回：転換期にある現代社会①：包摂型社会から排除型社会へ<br/>第5回：転換期にある現代社会②：後期近代がもたらす排除性<br/>第6回：転換期にある現代社会③：転倒的な人間形成作用<br/>第7回：自治と協働を育む「地域をつくる学び」の意義<br/>第8回：「地域を創る学び」の論理①：ダブルバインド論<br/>第9回：「地域を創る学び」の論理②：意識化論<br/>第10回：「地域を創る学び」の論理③：省察を通して実践の射程を拡張する</p> |                           |             |            |

第11回：住民主体の地域づくりを支える地域関連労働者

第12回：地域関連労働者の主体形成

第13回：自治と協働の地域拠点としての公民館

第14回：地域を拓く「知」を創出する学習ネットワークの組織化

第15回：まとめ：講義を振り返るディスカッション

定期試験は実施しない。

テキスト

日本社会教育学会編『地域づくりと社会教育的価値の創造』東洋館出版社、2019年

参考書・参考資料等

辻浩・細山俊男・石井山竜平編著『地方自治の未来をひらく社会教育』自治体研究社、2023年

学生に対する評価

課題：50%、レポート：50%で評価をする。

|  |                           |             |             |
|--|---------------------------|-------------|-------------|
| 授業科目名：観光資源<br>特論   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：丸山 宗志 |
|  |                           |             | 担当形態：単独     |
| 科 目  | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項               |             |             |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>観光資源の分類と定義を理解したうえで、観光資源をとりまく社会状況の変化と地域的意義について議論することができる。</li> <li>観光資源の整備・開発、地域資源の観光化について客観的に分析することができる。</li> <li>地図情報に基づいた景観調査や空間利用調査など、対象地域の地理的情報を読解・提示する技術を身に付ける。</li> </ol>   |                           |             |             |
| <p>授業の概要</p> <p>本講義では、観光の地域的展開に関する具体的状況を理解することを目的として、観光資源の形成過程と地域における観光の広がりについて考察します。講義前半において、現在に至るまでの観光資源を対象とした研究の展開と観光資源の分類・特徴を理解したうえで、講義後半では、とくに観光資源の開発・整備と社会情勢、地域動向との関係、地域資源の観光化や観光利用の実態などに着目することによって、現代における観光現象の地域的意義と役割について重点的に検討していきます。</p>   |                           |             |             |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：観光資源を対象とした研究の概観</p> <p>第3回：観光資源への理解①：自然観光資源と人文観光資源</p> <p>第4回：観光資源への理解②：複合観光資源と地域社会</p> <p>第5回：観光資源研究の動向①：農山村におけるスキー場と温泉集落</p> <p>第6回：観光資源研究の動向②：沿岸地域における民宿集落と海浜リゾート</p> <p>第7回：観光資源研究の動向③：都市地域における観光需要とアーバンツーリズム</p> <p>第8回：前半のまとめ</p> <p>第9回：観光資源の整備・開発①：レクリエーション施設の拡大とリゾート法</p> <p>第10回：観光資源の整備・開発②：国立公園の整備と観光利用</p> <p>第11回：地域資源と観光①：観光地開発にみられる地域資源の保存・活用</p> <p>第12回：地域資源と観光②：観光地運営にみられる地域資源の観光対象化</p> <p>第13回：地域調査・分析①：観光資源に関わる現地調査とオリジナルデータの収集</p> <p>第14回：地域調査・分析①：観光資源に関わるデータ分析とその可視化</p> |                           |             |             |

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

よくわかる観光学2 自然ツーリズム学 編著者：菊地俊夫・有馬貴之 出版：朝倉書店

よくわかる観光学3 文化ツーリズム学 編著者：菊地俊夫・松村公明 出版：朝倉書店

参考書・参考資料等

観光学ガイドブックー新しい知的領野への旅立ち 編者：大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治 出版：ナカニシヤ出版

学生に対する評価

定期試験50, レポート50%

|  |                           |             |             |
|--|---------------------------|-------------|-------------|
| 授業科目名：地域観光<br>特論   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：丸山 宗志 |
|  |                           |             | 担当形態：単独     |
| 科 目  | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項               |             |             |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観光現象の地域的展開について、対象地域の持つ一般性と特性をふまえながら議論することができる。</li> <li>2. 地域資源の観光活用の実態や、観光産業の現代的な傾向と特徴について客観的に分析することができる。</li> <li>3. 地図情報に基づいた景観調査や空間利用調査など、対象地域の地理的情報を読解・提示する技術を身に付ける。</li> </ol>   |                           |             |             |
| <p>授業の概要</p> <p>本講義では、観光の地域的展開に関する具体的状況を理解することを目的として、地域社会における観光の浸透プロセスと観光産業を受容する地域主体の実践について考察します。講義前半において、現在に至るまでの観光地域研究の展開を理解したうえで、講義後半では、とくに観光地域と地場産業との関係性、観光産業にみられる経営展開の多角化、地域主体による新規参入などに着目することによって、現代における観光産業の地域的意義と役割について重点的に検討していきます。</p>   |                           |             |             |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：観光地域研究の概観</p> <p>第3回：観光地域研究の読解①：研究対象地域と選定理由</p> <p>第4回：観光地域研究の読解②：研究方法と研究の手続き</p> <p>第5回：観光地域研究の読解③：研究目的と分析資料の提示</p> <p>第6回：観光地域の分析枠組み</p> <p>第7回：観光地域の現代的課題</p> <p>第8回：前半のまとめ</p> <p>第9回：観光地域と地場産業①：観光産業と農林水産業との関係</p> <p>第10回：観光地域と地場産業②：観光産業と商業・工業との関係</p> <p>第11回：観光産業と地域経営①：観光空間の拡大と進展</p> <p>第12回：観光産業と地域経営②：観光関連産業にみられる新規出店</p> <p>第13回：地域調査・分析①：観光地域を対象とした現地調査とオリジナルデータの収集</p> |                           |             |             |

第14回：地域調査・分析②：観光地域を対象としたデータ分析とその可視化

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

観光まちづくり—まち自慢からはじまる地域マネジメント 著者：西村幸夫編著 出版：学芸出版社

参考書・参考資料等

観光地理学—観光地域の形成と課題 著者：山村順次編著 出版：同文館

学生に対する評価

定期試験50, レポート50%

|   |                      |                           |             |
|---|----------------------|---------------------------|-------------|
| 授業科目名：産業立地<br>特論  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>2単位               | 担当教員名：古川 智史 |
|   |                      |                           | 担当形態：単独     |
| 科 目   |                      | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項          |                           |             |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>産業立地に対するアプローチ方法、概念を理解するとともに、それらを批判的に検討し課題等を指摘できる。</p> <p>様々な事例を通じて、産業立地の実態や直面する課題を理解し、そのメカニズムを多角的に考察できる。</p>   |                      |                           |             |
| <p>授業の概要</p> <p>本特論では、文献講読およびディスカッションを通じて、産業立地に関する概念・アプローチ方法・分析手法について検討します。まず、テキストの輪読を通じて、古典的な立地論の理解を深めます。その上で、具体的なケースを取り上げながら、現代の産業立地の実態や課題について検討します。本特論の一環として、エクスカージョン（巡検）を実施します。</p>   |                      |                           |             |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：立地論の導入（テキスト第2章）</p> <p>第3回：チューネンの農業立地論（テキスト第3章）</p> <p>第4回：ウェーバーの工業立地論（テキスト第4章）</p> <p>第5回：クリスタラーの中心地理論（テキスト第5章）</p> <p>第6回：空間的相互作用と人口移動（テキスト第6章）</p> <p>第7回：立地論を超えて（テキスト第7章）</p> <p>第8回：現代社会と立地（1）：サプライチェーンと立地</p> <p>第9回：現代社会と立地（2）：立地調整</p> <p>第10回：現代社会と立地（3）：グローバル化と多国籍企業</p> <p>第11回：現代社会と立地（4）：商業空間の再編</p> <p>第12回：現代社会と立地（5）：オフィス立地と都市</p> <p>第13回：現代社会と立地（6）：サービス経済化と立地</p> <p>第14回：現代社会と立地（7）：文化産業と集積</p> <p>第15回：総括</p> <p>定期試験は実施しない。</p> |                      |                           |             |
| テキスト  |                      |                           |             |

経済地理学とは何か―批判的立地論入門―（著者：中澤高志 出版：旬報社）

参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介します。

学生に対する評価

課題50%

受講態度50%

|  |                           |             |            |
|--|---------------------------|-------------|------------|
| 授業科目名：地域協働<br>特論   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：向井 健 |
|  |                           |             | 担当形態：単独    |
| 科 目  | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業） |             |            |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項               |             |            |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 実践コミュニティの境界横断と地域協働を通した新たな価値生成</p> <p>【到達目標】 (1) 現代における地域協働の必要性について理解することができる。(2) 状況的学習論を理解するとともに、協働的な学びの意義と可能性について理解することができる。(3) 多様なアクターの間を結ぶ役割を担う地域関連労働者の役割について理解することができる。</p>  |                           |             |            |
| <p>授業の概要</p> <p>地域や職場など単一の実践コミュニティ内部に閉ざされていると、なかなか新しいアイデアが産み出されずに行き詰まるということは少なくありません。ましてや、現代社会の問題が複雑になってくる中で、そうした問題状況は、あらゆるところで広がっています。そこで、本講義では、既存の実践コミュニティの境界を越境することで、新たな文化規範や知を創造的に生み出そうとする実践に焦点をあて、それらの実践の分析を行いたいと考えています。また、協働的な学びを組織する支援者の果たす役割も検討をしたいと思います。</p>  |                           |             |            |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：何故、地域協働を問うのか：多様なアクターの参加と市民的公共性</p> <p>第2回：協働的な学びの意義：個体主義的学習観を超えて</p> <p>第3回：協働的な学びの論理①：状況的学習論（実践コミュニティへの着目）</p> <p>第4回：協働的な学びの論理②：実践コミュニティとその構成要素</p> <p>第5回：実践コミュニティの発展の条件、阻害要因</p> <p>第6回：実践コミュニティの境界を越境する</p> <p>第7回：複数の実践コミュニティの間を往還する</p> <p>第8回：対話・協働を通した意味交渉</p> <p>第9回：実践コミュニティの対象化</p> <p>第10回：地域における協働の深化と新たな価値の生成</p> <p>第11回：協働によって創出された価値の普遍化</p> <p>第12回：共同探究者としての地域関連労働者</p> <p>第13回：実践分析①：行政とNPOとの協働による地域づくり実践の分析</p> <p>第14回：実践分析②：地域と学校の協働実践の分析</p> <p>第15回：まとめ 講義を通してのディスカッション</p> |                           |             |            |

定期試験は実施しない。

テキスト

ジーン・レイヴ、エステイス・ウェンガー著『状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加』産業図書、1993年。

参考書・参考資料等

エステイス・ウェンガー、リチャード・マクダーモット、ウィリアム・M・スナイダー著『コミュニティ・オブ・プラクティス：ナレッジ社会の知識形態の実践』翔泳社、2002年

学生に対する評価

課題50%、レポート50%で評価する。